

発行所 田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区北浜2-1-6 18

新ワクチン

Vaccine News

平成26年秋号

監修:川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司 先生

平成26年秋号のトピックス

- みずぼうそう(水痘)ワクチンが定期予防接種に
- 本当はこわい、みずぼうそう(水痘)
- インフルエンザの流行期に備えて

みずぼうそう(水痘) ワクチンが定期予防接種に

みずぼうそうはワクチンで予防できる感染症です。

これまで、接種を希望する人が任意で水痘ワクチンの接種を受けていましたが、平成26年10月から定期接種として受けることができるようになります。

主な接種対象者は主に1歳以上3歳未満です。1回目を接種したあと、しっかりと免疫をつけるために、3ヵ月以上間隔をあけて2回目のワクチン接種を受けます。

水痘ワクチンは、麻しん風しん混合ワクチンの1回目や4種混合ワクチンの4回目など、1歳で接種を受ける他のワクチンとの同時接種も可能です。

定期接種対象者

生後12ヵ月(1歳)から36ヵ月(3歳)未満、3ヵ月以上の間隔で2回接種。

標準的な接種期間

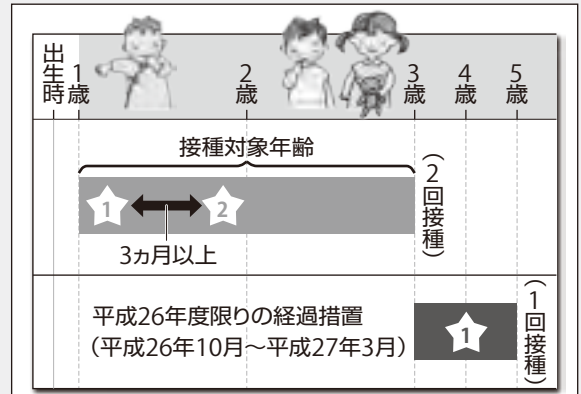
1回目接種:生後12ヵ月から15ヵ月未満
2回目接種:1回目接種終了後、6~12ヵ月の間隔をあける

かかるまえにできること



計画的に接種スケジュールを組み、1歳を迎えたら体調の良い日を選んで忘れずに2回接種しましょう。

水痘定期予防接種スケジュール (平成26年10月より)



※1歳で受ける他のワクチン(麻しん風しん混合ワクチンなど)との同時接種も可能です。

かかる前にできること、それは... 予防できる病気には予防接種を!

本当はこわい、

みずぼうそう(水痘)

みずぼうそうは、子どもの病気の中で身近なもののひとつです。非常に感染力が強く、保育所や幼稚園など集団生活の中で流行しやすい病気です。

発病すると全身にかゆみの強い水疱ができ、かきむしると傷口から細菌感染し、あとが残ることもあります。

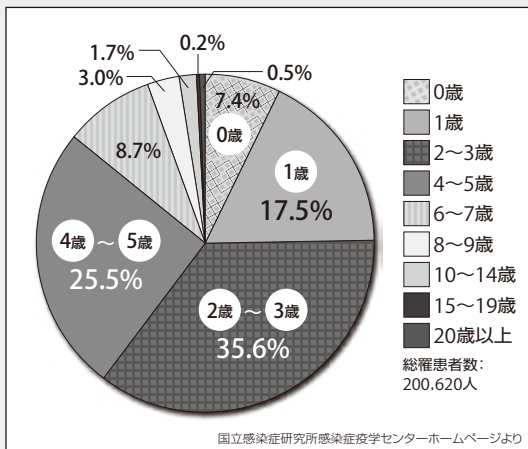
また、すべての発疹がかさぶたになるまでは出席停止となるため、1週間程度は幼稚園や保育園を休まなければなりません。

みずぼうそうは、一般的に軽い病気だと考えられているため、周りで流行があった際に「うつしてもらえばいい」と思われる保護者も少なくありません。しかし、実際は軽く済むばかりの病気ではなく、まれに脳炎や肺炎、皮膚の二次性細菌感染症などの合併症が起こることがあり、また、抵抗力が低下している人や、年少児については重症化するおそれがあります。

みずぼうそうの患者を年齢別に調べると、約80%は1歳から5歳でかかっています。このため、1歳の誕生日を迎えたらすぐにみずぼうそうの予防接種を受けましょう。

お子さんの健やかな健康を守るために、1歳を迎えたらすぐにみずぼうそうの予防接種を受けることをお勧めします。

みずぼうそうに罹患した患者の年齢分布 (2011年1月~11月までの集計)



インフルエンザの流行期に備えて

インフルエンザと風邪は、よく似た症状があらわれることもあるため、同じように考えられがちですが、全く異なる病気です。

風邪の症状は、のどの痛み、鼻汁、咳などが中心で、一般的には軽症ですが、インフルエンザは突然、38度以上の発熱、頭痛、悪寒、関節痛、倦怠感など全身の症状があらわれ、併せて風邪と同じような症状もみられます。

子どもではまれに急性脳症を、高齢の人や免疫力の低下

【主な感染症がはやる季節】

月	春			夏			秋			冬			春			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
麻しん	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
風しん	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
みずぼうそう	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
おたふくかぜ	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
インフルエンザ									1	2	3	4	1	2	3	4
感染性胃腸炎(ノロ)																
感染性胃腸炎(ノロ)																
ヘルパンギーナ																
手足口病																
咽頭結膜熱(プール熱)																
溶連菌感染症																
突発性発しん																

一般的な流行時期をご紹介しますが、流行する時期は地域によって異なります。 □ ピーク時 ■ 通年

感染性胃腸炎(ノロ)の季節です。

インフルエンザワクチンと水痘ワクチンは同時に接種することが可能ですが、詳しくは、かかりつけの医療機関でご相談ください。

インフルエンザが流行する冬に備えてインフルエンザの予防接種を受けましょう。

インフルエンザワクチンと水痘ワクチンは同時に接種することが可能ですが、詳しくは、かかりつけの医療機関でご相談ください。

インフルエンザの症状

- 頭痛
- 発熱 (38度以上)
- 悪寒
- 強い倦怠感
- 関節痛

